

# えびあん

立川と語ろう 立川に生きよう

February 2013

Écoutez Bien Vol.31 No.339

2

【特集】立川ファルコンズの勇姿!

【インタビュー】100周年を迎えた至誠学舎——高橋利一さん



# 貫く信念「子どもたちの身になりきる」

## 社会福祉法人 至誠学舎立川 理事長 高橋利一さんに聞く

子どもたちと100年。

創設者の思いを継いで、つないで、さらにまたつないでいく。

ひとり、ひとりの子どもをみつめて。

——100周年おめでとうございます。自分の子どもと分け隔てなくと言いますが、なかなかできないことですね。

**高橋** 私たちも子どもの頃からそういうものだと思って育ってきましたが、一般で言えば「それは仕事でしょ」ということですよね。でも施設にいる子どもたちにとっては、そう割り切れることではない。特に虐待を

受けて来ている子どもたちですからね。

——今の入所理由は虐待が殆どでしょうか。

**高橋** そうですね。虐待、貧困、養育放棄、親の疾病。

——100年という間には施設も変化を求められることがあったのではないですか？

**高橋** 100年のそもそも菓子販売業だった祖父母が、人に頼まれて2人の浮浪少年を預かったのが始まりで、それも頼まれて預かったという所に祖父母の人柄があったのではないかと思います。基本的には昭和23年まで少年保護の仕事でした。社会的に一定のジャッジを受けた子どもを引き取って、社会に復帰させるための施設です。昭和21年に創設者の祖父 稲永久一郎が亡くなり、昭和23年にはGHQの指導によって解散を命ぜられた。至誠学舎としてはこの先どうしていくかと迷いの中にあり、立川市の要請に応じて無償貸与で校舎として建物を提供したことで、3年間の空白ができた。東京都は早くに施設を開設するようと言われていましたが、この空白は考える時期でしたね。

その間に社会のニーズを咀嚼しながら、いま社会が必要としているものは何かを考え、養老院、乳児院や養護施設、母子寮という、制度によって作られた施設を選ぶことを考えたわけです。

——いろいろな要請もありましたでしょう。

**高橋** 行政からは当面の仕事として母子寮をという要請は強かったですね。でも三中可以できるまで3年間校舎として建物を提供していたことから、認可がなかなか降りなかったんです。認可するための基本になるのが、建物のような生活する場所や一定の資産ですから。そこで、忙しい農繁期に安心して農作業に従事できるように、畑の畝に置かれた籠の中にいる赤ちゃんを預かってあげましょと、社会の側からはニーズとして提言されなかったけれども、地域の公民館などを借りてその間だけお世話することを始めたんですね。

——まさに保育園の先駆けですね。前後しますが、GHQはどうして解散させたのですか？

**高橋** こういった大変な仕事は国がやるべきだということなんです。昭和22年に公布、23年施行された児童福祉法による養護施設は、国の認可による施設。基本的には国の責任です。憲法でも最低生活を保障しているが、児童福祉法では親が養護できないなら国が代わって養護ましょと謳っています。でも、子ども達がこの施設で求める





開設当時の子どもたちと施設長夫妻  
写真提供:至誠学園

の保護団体の研修に参加し資格を取得し、ゆくゆくは認可されていく。そういったプロセスも大事だったと思いますね。

——まさに「至誠」ですね。

**高橋** 我々は仕事とは思っていないのですが、使命として子どもたちに思いをかけて育てることで、今までは貧困の連鎖の中にいたけれども自分には将来がある、別の人生があると気づかせてあげたい。ああ、学園に来て良かったと言いながら、お世話になったと思う子は夜学に通って資格を取ろうと頑張っていますし、海外との架け橋になるのだと一生懸命勉強している子もいますし、大学で特待生になる子もいます。

——すばらしいですね。

**高橋** 僕はよく大学に行きなさいと子どもに言いますが、誰にでも言えることではないです。無理を強いてもしょうがないので。でも昔なら中学を卒業して町工場などに入って育てられ、後に社長になって看板あげる子もいました。いまはそうはいかない。大学に行って、施設出身者ではなく大学卒業生として自らの責任で社会に立ち向かうことを期待したい。

——そこでも子どもの将来を考えてあげて

るんですね。  
**高橋** ただし大学に行くにはそれなりの資金が必要です。奨学金を利用したり「あしながおじさん」を探したり。アルバイトで資金作りもします。18歳になると学園を出て自立しなければならぬですから。

——そうですね。立川にも学園に支援をしてくださる方々がたくさんいらっしゃるんですね。

**高橋** ええ、三田(鶴吉)さんのように後援会を作って下さったり、三田さんが応援して下さい、またそこからいろいろの方が、表に名前を出さずに毎年寄付をくださったりね。こちらが、例えば子どもたちのために庭を芝生にしたいとか、車が欲しいとか目的をはっきり伝えれば、中古車でも提供しようとか、借金があるならその財源を提供しようとか協力して下さる方々がおられる。これからはみんなで一緒になって子育てを考える、そんな人たちの集まりにしたいですね。

例えばこの「大地の家」にしても、0歳児

からの養護施設という今までの制度にはない新しい発想に協力がいただけたんです。——0歳からの養護施設も社会のニーズなんですか。

**高橋** むしろ子どもの身になった私たちのニーズです。0歳から3歳までの自我の形成期というのはとても大事です。現在の制度では、2歳で乳児院から養護施設に移動します。環境も変わるし、人も変わる。家族にとっても新しい人間関係を作らなきゃならない。

——母親学級でも3歳までは大事と教えられる。そこで環境が変わるといのは、不思議ですね。

**高橋** 大事件なんです。ただ、2歳、3歳児にとったらそれが大事件かどうかはわからない。現実には起きている変化の記憶はないから。でも心の中に焼き付けられるものは、情動記憶というのでしょうか、無意識の中に忘れられないものが記憶として残るんです。だからこそ大事にしてあげたい。親の代わりはできないけれど、その子に対して年齢に応じた支援として、より多くの経験を、例えば動物園や遊園地、海や山へ連れて行ったりする。その経験は現実ですよ。すると子どもは、そういえば動物園に行ったな、それは施設ではなくて、もしかしたらお母さんに連れて行ってもらったかもしれない。そんなパーツだけ取り替えることが、こういった施設ではできません。

——理事長のお話を聞いていると、1つひとつに仕事を越えたある部分がないとできない気がします。  
**高橋** おのずと子どもの代弁をしているの

かな。

——それを、100年でしよう。

**高橋** そうですね。引き継ぐということは大変ですが、我々が同族的な部分に支えられたこともあると思います。また我々の思いを代弁して下さいの方がいらして、地域の中でも支援したいという方が増えて来て下さった。多くのボランティアの方々が仕事を支えて下さっているんです。

——100年を迎えて、これからは?

**高橋** 僕の経験から、お金ができればやろうではもう遅い。この子どもたちのためにお金がなくてもやらなきゃならないことはやらなきゃいけない。Here & Now。今ここで何ができるかです。これだけ社会が豊かになると、建物も貧しいものでは子どもたち

が満足できない。建物もある程度、子どもたちが自信を持てるものにならないといけない。建物が新しくなった時、子どもたちは「ああ、友達が呼べる」と言いました。それだけでなく社会は「施設っていうのは」……。——という目で見えていますものね。

**高橋** 見えています。マスコミが取材に来て、ここは立派過ぎてダメだって。じゃどういのがいいんですか?って聞くと、もっと田舎にあるような木造の小学校のようになって、ああ、そういう目で見ているんだなって思います。確かにドラマに出てくるのはそういうところですね。社会の変化に伴って、施設も変わるんです。そのためには借金もします。

——子どもたちの身になって考えるんですね。

**高橋** そうなんです。その「子どもたちの身になる」ということがずっと先代たちから続いていることです。

——そう言えば、タイガーマスク来るそうですね!

**高橋** この学園には昭和27年にもタイガーマスクが現れました。慶応義塾大学のライチウス会の学生さんたちです。もう50年以上、労働奉仕からマンツーマンの子どもたちのお兄さん、お姉さんとして、先輩から後輩へと続いています。お顔がわかるこうした意味のある支援もお願いできると思うんです。

またここには毎週学習塾の先生が5、6人来られて、勉強を見るボランティアをしてくれています。そのもととがタイガーマスクなんですよ。是非ランドセルを寄付したいと

でもそんなに1年生ばかりいるわけではないからということで、それならば学用品の分として寄付しましょうと、社長が上乘せしてくださり寄付をいただきました。顔が見えれば、違った形にさせていただくこともできるんですね。

そのお礼に僕が社長を訪ねた時に、子どもたちがもっと自信持って学校で手を挙げ

られるようにするにはやはり塾で勉強できたらと話して、学習支援という形で先生が来て下さるようになったんです。勉強を見ていただくと、子どもたちの学習意欲が高まりできるようになっていくんですね。こうしてできる範囲で関わっていただくことで、子どもたちは自分を見つめ直すチャンスを得て、自分で可能性を引き出せるんです。

——すごいですね。

**高橋** 子どもたちの中には、園長先生、今に僕が学園の借金返すからなんて言う子もいます(笑)。僕はありがとうって言いながら、一番いい恩返しは良き納税者になることだよ、と言うんです。本当に自立するとい



ものはそんな単純なものではない。結局公立にはできないので、全国的には90%近い民間の施設が公に代わってこうした子どもたちの養育にあたっています。

——では費用の面では最低基準はみてる……。

**高橋** 最低基準というのは鉛筆2本、パンツ2枚とかのレベルです。が我々は民間の施設ですから、もし自分の子どもだったらこれでいいのかと考えます。国に理解して頂くにもなかなか難しく、先代たちは自分の財産もずいぶん売っちゃったりしながら施設を護ってくれました。我々にもプライドがありますから、ものごいするような気持ちで施設は運営したくない。子どもたちのために毅然としたものは持っていたい。そういった姿勢を貫くところに、支援者が出てきて下さったんですね。今は社会そのものに関心を持ってきて、ある種の社会的責任を感じたり次世代のことを考えてくれる人が増えてきました。

——理事長も5歳からこの環境に育って、葛藤とか疑問とか持たれたことないですか。

**高橋** ありましたよ。親に対して自分なりのイメージは持っていましたから。その親のイメージを多くの子どもたちに提供していくとすれば、自分には百分の一かもしれないなとは思いましたよね。

——でも結果的には、ご自分もご両親と同じになっていかれた。

**高橋** 僕も小学生の頃にはパイロットにな

りたいなんて、小学校の作文にそれなりのことは書いていました(笑)。それが一緒に暮らす多くの子どもたちと付き合うようになって、変わったんでしょうね。小学校も一緒だったし、中学校も一緒だったし。そして私たち夫婦も一緒に息子たちを育ててきましたが、園長の息子だからと思われなように常にバランスを考えます。

——公平なんですね。

**高橋** そう、公平なんですよ。息子にそういったことを聞いたことはないで、果たしてどうだったのかわかりません。でも、まあ、今はここで一緒に仕事をしていますからね。私たちの背中を見てたのでしょうか。

——創設者の稲永さんご夫妻のお嬢さんたち5人のうち、4人が事業を継がれている。お嬢さん方も素晴らしいと思うんですけど、私はその配偶者の方々がすごいと思うんです。

**高橋** その配偶者であるうちの父(高橋利成さん)も創設の阿観心さんや橋本良市さんも、みんなこうした社会事業への思いの中に信念のような「なるほど」というものがありました。児童や保育、高齢福祉へと取り組み、こうして揺るがない歴史をつないでいくことができたのだと思います。動機は確かに2人の少年を自宅に引き取って育てたことですが、少年保護という仕事に対して創設者自身がその少年2人に教えられたことが、社会的なある種の責任であった。自分たちも勉強しなければいけないと当時

# 勝ちにこだわり 挑み続ける「立川の隼」

## 創部40年を迎えた アメリカンフットボールチーム Tachikawa FALCONS

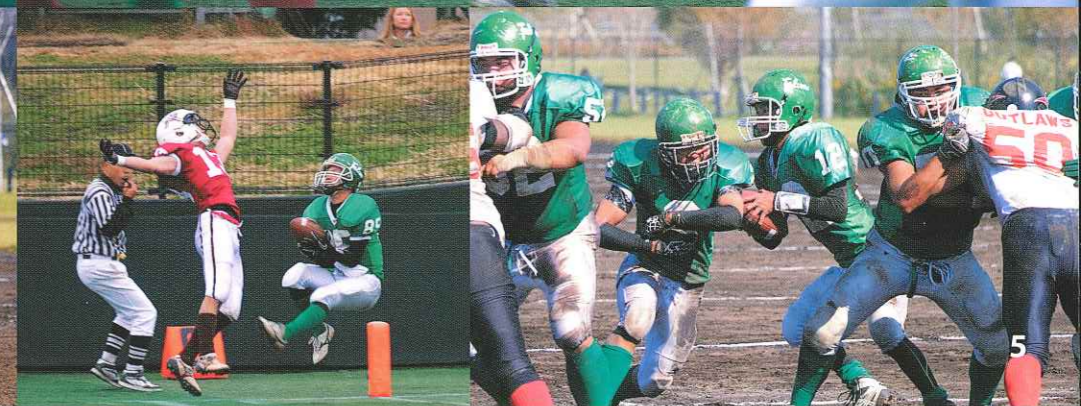
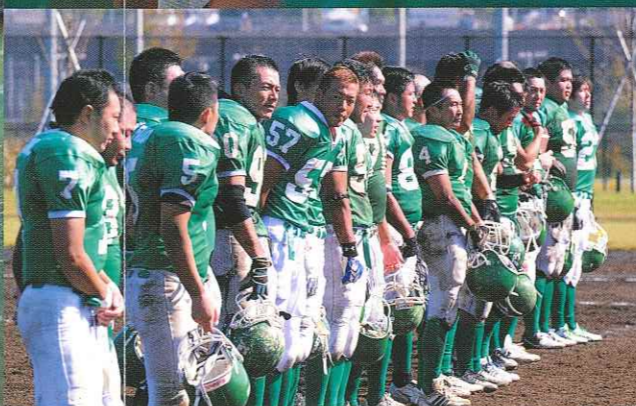
アマチュアチームの存続には  
周囲の協力や支えが欠かせない。  
40年という年月は、  
FALCONSがいかに魅力的かを物語っている。  
1度試合を観戦してみるといい。  
応援したい、そう思うにちがいない。

力強いディフェンス



代表 白倉和行さん「一生懸命やる、それだけじゃダメなんだよ。勝たなきゃ」  
更なる40年はこの1勝の積み重ねなのだろう

オフェンスが抜けて、走って突き進む



えくてびあんはリストのお店にあります。  
今月は 柴崎町・富士見町・昭島市 のお店です。

柴崎町

- 小林歯科クリニック ..... 527-8217
- ビューティーサロン ウィスタリア 527-1116
- オリオン書房 サザン店 ..... 525-3111
- ステーキ&ハンバーグのお店 WISH BONE 527-7199
- 三船クリニック ..... 523-6693
- 西武信用金庫 立川南口支店 529-1311
- たましん 南口支店 ..... 528-2211
- りそな銀行 立川支店 ..... 522-4161
- オリオン書房 アレア店 ..... 521-2211
- ほっとすべす 中屋 ..... 522-2932
- 立川ワシントンホテル ..... 548-4111
- Coffee Shop LARGO ..... 525-6704
- パッケージプラザ カサイ ..... 522-8601
- (株)けやき出版 ..... 525-9909
- 手づくり ぎょうざ工房 ..... 522-4770
- みどりっ子 立川店 ..... 521-6688
- 喫茶 ギャラリー 花 ..... 524-3668
- 矢沢歯科・眼科 ..... 525-6601
- ラ・フレーズ シュクレ ..... 525-3513
- (株)京王ストア 立川店 ..... 540-1131
- 武本測量 (株) ..... 524-7731
- 立川市柴崎市民体育館 ..... 523-5770
- NPO 法人 東京 賢治の学校 523-7112

富士見町

- (株)浅見酒店 ..... 522-2823
- 伊藤接骨院 ..... 524-7861
- カット・スペース ..... 523-8619
- cafe こもればい家 ..... 526-2506
- 手作りケーキの店 プティ・パニエ 529-8364
- さえき 西立食品館 ..... 529-5333
- (株)ヤマダ電機 (法人) ..... 526-1044
- ヤマダ電機 ..... 526-1099
- ダイクマ 立川店 ..... 526-1099
- 西村歯科クリニック ..... 519-9501
- 井上レディースクリニック ..... 529-0111
- 中華レストラン 東華園 ..... 529-0458
- 榎本調剤薬局 ..... 526-2322
- 有料老人ホーム サンピナス立川 527-8866
- 飯塚花店 ..... 522-5684
- 一如社グループ エスパス 21 527-0370
- うさぎ専門店 ラッキーラビット 524-6054
- (株)ホーミー ..... 522-2220
- カフェ・貸しホール ばくだん畑 522-2214
- Cafe Cuisson ..... 090-6935-1227
- (有)白洋舎 ..... 522-5952
- 波多野米店 ..... 522-2884
- 立川市社会福祉協議会 ..... 529-8323
- 桜井電材 (株) ..... 523-5281
- 立川市歴史民俗資料館 ..... 525-0860
- 乙黒東洋整骨院 ..... 523-1859
- インテリア アイアイ ..... 522-5972
- たましん 富士見町支店 ..... 528-1741
- 滝ノ上米店 ..... 522-4019
- 酒 ESPOA おぎの ..... 522-4500
- 建築リフォーム (有) 日防商会 0120-263821
- (株)立川印刷所 ..... 524-3268
- 調剤薬局 団地の薬局 ..... 524-4893
- 松栄寿司 ..... 524-6958
- ふじみ食堂 ..... 523-4791

昭島市

- いなげや 昭島郷地店 ..... 545-4516

jorakugajo

真如苑提供番組〈常楽我淨〉

スカイパーフェクTV: 216ch  
マイ・テレビアナログ: 11ch  
デジタル: 111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

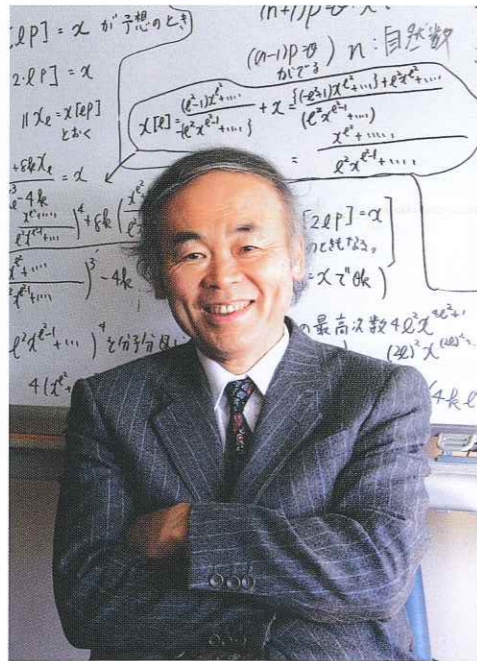
街の話題

「国家の品格」

あの藤原正彦氏が応現院で講演

平成25年3月22日、数学者で作家、お茶の水女子大学名誉教授でもある藤原正彦氏をお迎えし、第12回応現院文化講演会が開催されます。応現院文化講演会は、真如苑の寺院「応現院」を地域の文化交流の場として活用してもらうことを目的に、応現院文化講演会実行委員会が主催している催しです。応現院が落慶してまもなく7年を迎えようとしています。継続してきた応現院文化講演会も12回目となりました。

今回の講師である藤原正彦氏は、大ベストセラーとなった著書「国家の品格」「日本人の誇り」などの中で、国の危機的状況を憂い日本人の覚醒と奮起を期待して、今日日本人が何をすべきかをわかりやすく興味深く語っていらっしやいます。今回は「日本のこれから」で、何をお話くださるのでしょうか。楽しみですね。



【講演者プロフィール】

藤原正彦氏

「国家の品格」が大ベストセラーとなった数学者。30年余り前にお茶の水女子大学に転々と現れて以来、同大学で教鞭をとる。4〜5才の頃より算数に魅せられる。小学5年の時には同郷の小平邦彦先生のフィールズ賞受賞に感激し、将来の職業を数学者と定める。その夢を実現し国際舞台で活躍するために、中学の時にはドイツ語、フランス語、英語の習得に没頭。しかし今では古今東西の古典を読むべきだったと後悔している。現在の日本の状況を憂い、日本の再建のためには日本人としての誇りを持つことが重要と考え、その著作「日本人の誇り」は発売早々30万部を超えるベストセラーとなった。また昨年11月には、急逝した父、新田次郎の未完の遺作「孤愁—サウダデー」を完成させて出版し、文学史上初めての親子共著として大きな話題となった。

第12回 応現院文化講演会  
「日本のこれから」

【講演者】

数学者・作家  
お茶の水女子大学名誉教授

藤原正彦氏

日時:平成25年3月22日(金) 14時開演  
(講演時間は90分を予定しています)

会場: 応現院(立川市泉町935-27)  
主催: 応現院文化講演会実行委員会  
後援: 立川商工会議所・立川観光協会  
立川バス株式会社・エフエムたちかわ  
協力: 株式会社精神文化映像社  
えくてびあん・多摩てばこネット  
協賛: 真如苑

【お申し込み方法】

聴講には事前のお申し込みが必要です。ご希望の方は下記要項に従って往復ハガキ、またはインターネットでお申し込みください。尚、お申し込み多数の場合は抽選となります。(定員700名様)

- ①住所、氏名、年齢、電話番号、希望人数(本人含めて2名様まで)を明記し、往復ハガキで申込先に郵送。
- 申込先: 〒190-0023 立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F 応現院文化講演会実行委員会
- ②PC、携帯電話によるインターネット応募フォームで申し込む。

http://www.bunkakouenkai.jp



【申込期間】

往復ハガキの場合は、平成25年1月22日~平成25年2月20日必着  
インターネットの場合は、平成25年1月22日午前10時~平成25年2月20日午後5時まで

【お問い合わせ】

応現院文化講演会実行委員会  
TEL 042-523-9898

すてきな本2冊ご紹介

富士見町の守屋龍男さんから著書「多摩の峠道や古道を歩く」を、



柏町の小林玉来さんから「つつし写真集」を頂きました。どちらも長年かけて積み上げて来た経験をまとめられた作品です。1つのことを貫くってすばらしいですね。



企画展「記憶をつなぐ  
—津波災害と文化遺産—

国文学研究資料館では、同じ人間文化研究機構に属する国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館などと連携し、2011年3月11日に発生した東日本大震災後の復興支援に携わってきました。立川はもちろんだ、周辺の多摩地域にも大切にきた文化財があります。文化遺産の復興作業に目を向けたこの展示を通し、私たちに与った文化遺産の意義をあらためて見直すとともに、その文化遺産を通じてこの震災・津波災害の記憶と経験をいかに未来に継承し、次代の社会を築き上げていかに考えていきたいと思います。

【展示期間】

平成25年1月30日(水)~3月15日(金)  
開館時間 10時~16時半(入室は16時まで)  
休館日 日曜、月曜、祝日  
観覧料 無料  
場所 国文学研究資料館 1階展示室

「多摩てばこネット」のQRコードです。

月刊えくてびあんでお知らせしきれなかった話題や写真を、Web版えくてびあんに掲載。立川に関わる事柄を立体的にお届けします。どうぞお楽しみください。

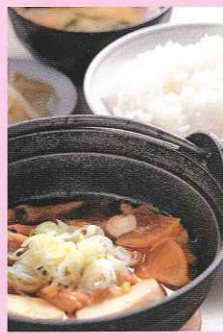


出前もします

おじゃましま〜す! [11]

ふじみ食堂

50年、変わらない味です



新興多摩街道沿いにある、和洋なんでも味わえるお店です。このあたり50年前までは一面畑だったそうですが、東京オリンピックの自転車競技のために農道を広げました。そこで当時ドライブインと呼ばれたお店をオープンしたのが、ふじみ食堂の始まりです。以来、ほとんど同じメニュー、同じ味で頑張っています。変わらない味にはホッとさせる何かがあって、初めて食べた人にも「懐かしい味」と言わせてしまいます。セットメニューのミニラーメンは、これで本当にミニなの?という量。だからスタミナ丼セットや炒飯セットは、やっぱり定番の人気メニューです。寒くても寒くなくても好きな人は好きというのがモツ鍋。単品でビール!というのもいいですね。よく味のしみた大根やお豆腐に七味をかけていただきます。出前もしてくれます。立川の老舗の味をどうぞ!

〒190-0013  
立川市富士見町7-37-22 ふじみビル1F TEL 042-523-4791  
営業時間 10:00~21:00 (L.Oは8:30)  
定休日 日曜、祭日



表紙の人

村野昭次さん、昌利さん、孝太さん

暮末から続くだるま屋さんです。年末から春先に売るだるまを、4月頃から12月半ばまでかけて1から作ります。お写真を撮りにうかがった12月。曇りガラスの向こうが部屋いっぱいのだるままで真っ赤に見えました。だるまの魅力については多摩てばこネットどうぞ!

かたこと

◆だるまを作る工程は、それを追った面白いだろうと思うくらい変化があります。埼玉県小川町で生産される張子紙を、水だけで木型に貼っていくところから始めて、赤い体で目の周りが金色になるまでには本当にいろいろな作業が。顔に眉毛や髭を描く時は「鶴さん、亀さん、富士山」と描くのだそう。顔にもおめでたさが溢れています。◆立川にアメフトチームがあるなんて知らなかったと言ったら申し訳ない。そのくらい、実は歴史もあって強いです。メンバーの中には学生時代に有名だった人もいれば、ここで初めてフットボールを始めた人も。でも、一旦メンバーになると代表の言葉にある通り「勝ち」にこだわってぶつかると、走ります。多摩川の河川敷で毎週日曜日に練習しています。立川のチームです。応援したい!◆高橋理事長のお話に、本当にできないことをなさってきた百年なのだ、そしてそれを一緒に気持ちになつて支えてくれた立川の方々、本当にすばらしいと感じました。子どもの親に親業を教えるケアについてもお話しましたが、紙面の都合で掲載できず残念でした。◆近隣の市にお住まいの方が「立川にはえくてびあんがあっていいわね」とおっしゃったと伝えてくださった方がありました。本当に一声でもそう言っていただけるとありがたいです。皆さまへの感謝をこやかに、えくてびあんは今年も元気をお届けします!どうぞよろしくお願い申し上げます。

えくてびあん◎

2月号 第31巻 通巻339号

平成25年2月1日発行  
発行 有限会社えくてびあん  
〒190-0023  
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F  
TEL 042-528-0082  
FAX 042-528-0065  
E-mail message@tamatebakonet.jp  
URL www.tamatebakonet.jp  
発行人 黒須環  
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ  
デザイン 池田隆男  
(WATER DESIGN ASSOCIATES)  
印刷 三浦印刷株式会社

無断転載を禁じます。



## 「いま、会いにゆきます」市川拓司 著

### ——究極の恋愛について

市川拓司は「恋愛小説家」と言われている。市川拓司の究極の恋愛とは、ひとりの人を愛しそれを全うする不器用な恋愛。「いま、会いにゆきます」でもそのことが顕著に表れていると思う。さりげない生活の中にこそ、愛しいと思う気持ちが充満していて唯一無二の人がいれば他に何もいらぬという恋愛観だ。

本の中の朝食の場面で、

佑司「たっくん？」

巧「何？」

佑司「また目玉焼きとウインナー？」

巧「そうだよ、栄養あるし、とてもおいしい」

というところがある。でも、その目玉焼きも目玉じゃなくて、意味不明な模様の白と黄色の物体だったり、黒く焦げたかりんとうみたいなウインナーが転がっているお皿が見えるような気がする。そしてそこには生焼けだけ

たり、焦げていたりしたトーストが配置されているはず…。

アーカイブ星から戻ってきた滯りが作る朝食には、光り輝くスクランブルエッグにきれいな焼き色のついたウインナー、つややかな野菜の付け合わせ、そして思わずかぶりつきたくなる様な香り豊かにこんがりと焼けたトーストがあるはず。佑司の瞳が輝くのが目に見えるようだ。そしてそこには幽霊でも、戻ってきてくれた愛妻を愛おしげに見ている巧の姿があるはず。親子3人で食べる朝食がどんなに幸せな事であるか、そしてそれこそが究極の愛の形だと思わせてくれた。

さあ、私も滯のように、愛する人のために、こんがりとかやさいい色のトーストを焼くとしよう…。

鈴木悦子（千葉県）